

八代市

熊本総合病院に産科

熊大派遣
医師増員

高リスク妊婦 熊本市へ

八代市の熊本総合病院が2024年4月から、出産

の取り扱いを始めることが21日、分かった。今年10月には婦人科を「産科婦人科」に改め、妊婦健診も始めて準備を本格化させる。

【20面に関連記事】

島田信也病院長が明らかにした。医師派遣を受ける熊本大病院から産科開設の

打診を受け、検討していたという。

熊本総合病院は独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）が運営。婦人科の医師は現在、常勤と非常勤が各2人で、うち3人は熊本大からの派遣。今後段階的に増員してもらい、常勤医5〜6人で産科婦人科を運用する体制を目

指す。助産師8人も雇用する。

八代地域では、熊本労災病院（八代市）が24年3月末で出産の取り扱いを休止すると公表。労災病院は緊急の帝王切開などリスクが高い妊婦を受け入れる県の「中核病院」の指定を受けている。熊本大からの医師派遣が終了し、後任を確保

できないため休止を決めた。

総合病院では当面、ハイリスク妊婦は高度医療ができる熊本市内の病院に搬送する。熊本大病院産科婦人科の近藤英治教授は「ゆくゆくは熊本総合病院を県南のハイリスク妊婦を受け入れる拠点として整えていきたい」と言う。

総合病院の本館11階フロアに分娩室と産科専用の個室5床を設ける。島田病院長は「熊本大と連携し、県南の人が安心して子どもを産める施設にしていきたい」と話している。

（志賀葉里耶、箕島竜己）



2024年4月に出産の取り扱いを始めることが分かった熊本総合病院＝八代市